



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Apr. 1985 III-10

THEME (1984~'85)

- I. P. 「今こそ行動のとき」
- R. D. 「限りなき熱情を奉仕に」
- D. G. 「奉仕と誠をもって前進しよう」
- P. 「創ろう新しい伝統を」

1984~1985年 役員

会 長	中村隆幸	書 記	堀 利満
副会長	山田孝彦	"	藤井保男
"	長安敏夫	会 計	柴田 健
直前会長	山中秀男	"	浦野啓一
担当主事	田中稷二		

◆ 「ワイズメネット」強調月間<日本区>

<メネットナイト>

と き 4月17日(木) 18:30~20:30

と ころ 大阪YMCA会館 9階集會室

司 会 谷川メネット

1. 開 会 山田メネット
 2. ワイズソング 一 同
 3. 聖 句 朗 読 田中メネット
 4. ゲスト紹介 山田メネット
 5. 食前感謝「日々の糧」晩さん 一 同
 6. 卓話「我が家族」 大阪YMCA主事
ロナルド・D・ルースご夫妻
 7. 誕生日のお祝い 山田メネット
 8. ニコニコアワー 山中メネット
 9. 役員会、委員会報告、YMCAニュース
 10. 閉 会 山田メネット
- ▼ 今回は会費は不要です。
 - ▼ 受付当番(黒田、森各メネット)
 - ▼ ポケットラック当番(鈴木、山中、山村、杉本、皆本、柴田他各メネット)

◆ 第2例会

と き 4月25日(木) 18:30~20:30

と ころ YMCA国際・社会奉仕センター

◆ 誕生日おめでとう

長安美和子メネット	4月 4日
柴田 健 君	1932年4月 5日
堀 新子メネット	4月 9日
柴田 暢子メネット	4月 11日

Then Jesus told them, "You are going to have the light just a little while longer. Wark while you have the light, before darkness overtakes you. The man who walks in the dark does not know where he is going. Put your trust in the light while you have it, so that you may become sons of light."

イエスは答えた。「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか知らない。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」

(ヨハネによる福音 12章35~36節)

3月例会出席者(在籍会員37名)

	第1例会	第2例会	Make up	累 計
メ ン	21名	13名	3名	24名
出 席 率	56.77%			64.86%
メ ネット	7名			
コ ネット	1名			
ヴィジター	1名			
計	30名	13名	3名	

◇ ヴィジター 小武内忠夫君(大阪クラブ)

◇ メ ネット 黒田、鈴木、田中、谷川、皆本、森、山田各メネット

◇ コ ネット 田中美果さん

◆ BFポイント 86,000円

ゲスト・スピーカー ロナルド (ロン)

D・ルース主事夫妻のプロフィール

ロン・ルース主事と日本のYMCAとの関わりは1966年より1年間、北米YMCA同盟より派遣され富山Yで働かれたことにはじまります。その間にとし子夫人と結婚されました。その後ホンコン・タイをはじめ各地で働かれた後、1974年から1年間世界同盟のベトナム難民事業に従事、戦後はアメリカに帰国し引続き受け入れ難民の定着のために活躍、1979年からはヒューストンYMCAで同地の難民事業の責任者として働かれましたが、昨年1月より当大阪YMCAの招ききに応じて3ヶ年間協力主事として活躍中であることはご存知の通りです。なお、ロンさん夫妻には4人の子供がありますが、その内の3人はベトナム養子で難民問題への理解の深さがうかがえます。

(田中穰二記)

第1例会の記録

- 当月はわがクラブの初めての試みとして、新入会員の歓迎を主たる目的に特別懇親例会をとることを変えて開催した。
会場はさきに「国際役員歓迎の夕」が催された、大阪YMCA会館への途中にある「徐園」にて行われた。
- 例会はいつもの雰囲気とガラリと違って変わり、堀君のメイ司会により、終始なごやかに、かつスムーズに議事を進行することができた。
中村会長より役員会の報告や、日本区、中西部よりの連絡事項があり、そのあと、新入会員の村田君をはじめとするメン、メネットのスリーミニターによりムードも上昇し、食事の方も格段においしさが倍加した。
- そこへタイミングよくBF委員長の皆本君より、当日の古切手未提出者に対して現金ポイントの要請が極めて上手に行われ、かなりの額(?)が集められた。
- 引続き誕生日のお祝いのおあと、ニコニコアワーが行なわれ、これもタイミングよく、お酒の手伝いもあってか雰囲気が盛り上がったためか、「料理がおいしかったから」等のコメントも多く、重量オーバーのニコニコ箱となった。
- また、松添IBCの企画による7月中旬の「ワイズメンズハワイ地区大会参加旅行」に是非とも同行したいという申し入れを兼ねて、大阪クラブの小武内君の臨時出席もあり、盛り上がった例会となった。
- なお、今回のような例会が年に1回位あってもという意見も多く、初めての試みとしては大成功で、今回の懇親会の目的を十分に果たすことができた。

第2例会の記録

1. 4月例会のプログラムの決定
2. メネットナイトの詳細打合せを行い内容を決定した。
3. 新年度よりの各委員会希望アンケートをとることにした。
4. 各大会への多数の出席を呼びかけることにした。
(日本区大会、アジア地区大会、ハワイ大会 etc)

今月の聖句によせて

もしある人が人生途上でつまづき、もう取り返しのつかない失敗をやってしまったと絶望感をもった時に、この聖句は無限の励ましになると思う。なぜなら「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にある」と教えている。従ってどんなに絶望した時でも、必ず神が一筋の解決の道を与えてくださり、その絶望を希望に変える力を持たせてくださるからである。

(黒田巖之)

ハワイを思う 福永嘉彦

今年がハワイ官約移民100年の記念すべき年です。私が住んでいた時から既に日系人知事George Ariyoshi氏や日本国総領事を先頭に日系人の諸団体や日本の進出企業の代表者たちで作っている日本クラブなど関係者がこれを如何に有意義なものにするか活発な議論がなされてきました。是非成功してほしいものと念願しています。

去る2月4日の夜NHKで放映された「ザ・ハワイアン・海を渡って一世紀」を食い入るように感激しながら見たのですが、100年前に移民してきた日系人が如何に苦勞して子供を育み今日の日系人社会を築き上げ、更にハワイのみならず広く米国に対して大きな貢献をしてきたか、涙ぐましいものがある事に思いを致し感無量です。そうしたお蔭で我々日本からきた人達も日常生活をエンジョイする事が出来るのです。本当に感謝すべきことです。

媽が同時に考えさせられる事は、日系3世や4世の人達は話す言葉が英語だということだけではなく、考え方、価値判断等は既にアメリカ人なのです。これは他の民族にも云えることですが、もう日系人だとか何人系だとかいうのではなくハワイに住むアメリカ人なのです。コスモポリタンとでも云える人達になりつつあるという事です。

私がアソシエイト・メンバーであったMakiki Christian churchのPhilip K.土屋牧師はハワイの教会が広く世界宣教の中心にならなければならないとよく申していました。それは地理的のみならず人種的にもいえることでしょう。高峰秀子御夫妻が「ハワイは、風と波と水の国だ。風はさわやか、波はザンプリコで、水は甘い」といわれているように正に地上の楽園ですがそれと同時に、この島の特異性を生かした福音伝道の大きな使命が課せられていることを忘れてはならないと思います。

今年が私のいたラナイ(ペランダ)で録音した大晦日のあの爆竹を聞き乍らハワイに思いを馳せ、全身郷愁におぼれている中から何か新しい息吹を確かめようとしているのに気付いた次第です。

次期中西部CS主査に中村隆幸現会長

現会長の中村隆幸君が次期中西部長、灰谷隅夫君よりの要請により中西部CS主査に指名があり、3月役員会で承認されました。

・ THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA—CENTENNIAL ・

ニコニコへの道 S 60. 2入会

村田 貞夫

諸兄弟もいろいろな習慣を、お持ちだと思いますが、私もひそかな楽しみの一つに「デスク貯金」があります。ところが丁度Y's menクラブのゲストに招かれはじめたころから私なりに軌道修正をしてある種のルールを設け自律的に実行して来ましたが、3月20日は2月20日入会来初の「デスク貯金」開禁日となりました。丁度1ヶ月のささやかな貯金の結果であります。財政報告は非公開をご賢察願うとしてニコニコ献金へも全額とはまいませんが要約次の通りです。ご笑読下さいませ。

○貯金箱のネーミング Donation Box

○貯金の基準

○Open day Y's men club 例会日とする。

○無条件献金 1円
5円
50円 } 小銭入れの中でジャマになるので無条件で入れる

○条件献金

- ・ Thanks Donation 100円
" (おおきにチャリン) 一何かに感謝のしるし
- ・ Happy Donation 200円
" (しあわせチャリン) 一うれしかったら
- ・ Sorry Donation 300円
" (すんませんチャリン) 一何かわびの気持ちがあったら
- ・ Angry Donation 500円
" (かりかりチャリン) 一ふんがいしたらストレス解消が一番高額。
- ・ Complain Donation) 10円
" (ぼやきチャリン) 一いつもぼやいていたら金欠になるので低額
- ・ TOF 500円
昼食代相当

と云った誠に得手勝手なことで悦に入っています。例会当日Openして凡そ1ヶ月の集積をBKへ運んで通帳にinputしてもらい、その金額の中から、その時の財政上許された範囲で一部をニコニコでしめくくっていただくという趣向です。会員として第2回目のニコニコはこのような道のりをたどりました。ですから今回1ヶ月の喜怒哀楽の総括とも云うべき結果が出たところ統計的には「ぼやきチャリン」が多かったということだけご披露申し上げます。英訳の誤訳から、趣意についてのピントはずれは、未熟者の故をもってご勘弁下さい。

京都ウエストワイズメンズクラブ

「五周年記念例会」ご案内

日時：昭和60年5月5日(祝)

登録 12時30分～1時30分

場所：京都市北区衣笠鏡石町

「しょうざん」 TEL 075(491) 5101

会費：8,000円(メネット同伴会員は 13,000円
小学生以上のコメット 3,000円)

プログラム：式典 1時30分～2時30分

記念講演 2時40分～3時30分

ワイズメンズクラブ国際協会会長

竹内敏朗氏(京都ウエスト創立時の日本区理事)

香港のC. L. KUNG 氏来日の予定

6月21日～23日まで アジア地域大会が開られますが、この大会のセールス・プロモーションを兼ねて、香港のC. L. KUNG ワイズメンが4月初旬来日する予定である旨、谷川君宛連絡ありました。

同君はアジア大会のホスト・コミティのチェアマンでありより多くの中西部のワイズメンに参加してほしいと云っています。

谷川ワイズ世界同盟宮崎主事と接触

2月末、再度ヨーロッパを訪問した谷川ワイズは、法兰克福にて、世界同盟の宮崎主事と連絡しました。その結果、竹内国際会長のメッセージを伝えました。その内容は、現国際会長のEMERGENCY FUND \$4000を、アフリカ・スーダンで難民救済事業に従事するため世界同盟が派遣する人々の費用に使用することに同意する旨、のものであります。このようにして、国際ワイズは、世界Y同盟の行うアフリカ難民救済事業に役立っています。

遅れている大阪センテナルの申込み

— 日本区大会への参加は如何 —

今年6月8・9日、伊東で開かれる日本区大会、そのホスト役を引受けた伊東クラブからの報告によりますと、昨年末の大会登録者集計では、わがセンテニアルからの参加申込者はメン2名、メネット2名の4名にしかすぎません。

これは中西部の他のクラブに較べても、大幅に少ない数です。今から計画して、もっと多くのメンバーが参加し、センテナルらしく、ワイワイ、ガヤガヤ、やろうではありませんか。

今年の会長スローガンは「創ろう新しい伝統を」です。大阪センテナルの新しい伝統を創る、今が大切な時です。「参加しよう日本区大会へ」です。今度の日本区大会の標語は、「伊豆で結ぼう、ふれあいの花—新たなワイズを求めて—」です。ホストの伊東クラブメンバーが頑張っています。年に一度、全国のワイズメンが集う場です。参加申し込みを、なるべく早く会長まで、または、直接伊東クラブまで、お願いします。

中国の社会とYMCAをたずねる会

参加会員募中

期間 1985年7月6日(土)～14日(日)(予定)

訪問先 上海、蘇州、南京、北京

対象 YMCA会員および活動参加会員

定員 15名

参加費 260,000円(予定)

(航空運賃、中国滞在中の宿泊、食事代、団体での国内移動費)

お問い合わせ、お申込みは

主催 大阪YMCA国際文化センター

電話 06-441-0893

ヨーロッパ再訪 (その一) 谷川 寛

2月末から2週間にわたり、再度西独を中心にヨーロッパを訪問する機会がありました。駆け足で廻ったヨーロッパの印象を思いつくまゝに書いてみました。

1973年の石油ショックのあと、ヨーロッパの地盤沈下が云われ、「ヨーロッパシズム」という言葉が生まれました。もっとも、ヨーロッパの地盤沈下、没落は今に始ったことでなく、ドイツの歴史学者のシュペンラーは、すでに1900年のはじめに「西欧の没落」を書き、ヨーロッパでベストセラーになっています。

第二次大戦後、ヨーロッパの地盤沈下を喰い止めるため、ヨーロッパ共同体(EC)が生まれ、「ひとつのヨーロッパ」の実現を目指して、その第一歩を踏み出しました。しかし、その歩みは今も必ずしも順調ではありません。

最近、アメリカの対太平洋地域との貿易量が、対ヨーロッパのそれを凌駕しました。レーガン大統領も、太平洋地域を重視し、今や太平洋の時代だといわれます。

このように書くと、ヨーロッパには明日はなく、その経済にも、また個人人の生活にも、もはやゆとりがなく、魅力が失われたように思われるかもしれません。

しかし、今回駆け足で廻ったヨーロッパは、多様であり、円熟しており、人間の生活環境は彼らの方が数段上でした。その一つの証左を西独の空港で感じました。

1) フランクフルト空港

昨年6月についてフランクフルトは三度目の訪問でした。フランクフルトで、一番印象に残るのは、フランクフルトの空港です。空港に到着して感ずるのは、この空港の与える安心感です。

空港が森の一角に位置しており、自然と空港がうまく調和しています。ドゴール空港のような奇抜さはなく、ヒースロー空港のような暗さはありません。あくまでも機能を最優先させ、シンプルで機能的であり、わかり易い空港です。オランダのスキポール空港に似ているかもしれません。

空港ビルの地下から国鉄の特急(エアポートエクスプレス)が出ており、空港の横をアウトバーンが走っています。新大阪駅と名神高速道路と成田空港が一緒になっている感じ。空港のターミナルビル内には、あらゆる施設が整い、スーパーマーケットや、クリーニング店、そして、礼拝堂もあります。空港が一つの町を形成しています。しかも、こんな大掛かりな空港はフランクフルトの都心まで車で10分位いの位置にあります。日本の東京や、大阪では考えられません。

来年には関西新空港が着工するそうですが、このような規模の、しかも機能、アクセスをもった空港を期待することは難しいようです。日本も経済大国になりましたが、やはり空港を含めた社会資本の面で、ヨーロッパより大幅に立遅れている感じを強くもちました。日本では社会資本の充実が今後の大きな課題でしょう。

2) ヨーロッパの道路網

社会資本の充実といえば、日本では道路網の建設はペイしない(採算と合わない)といわれるそうです。しかし、現在の日本の道路事情のように慢性的な車の渋滞による時間と燃料の浪費を考えると、大局的には道路建設はペイするように思えるのですが……。

日本のトラック輸送コストは、ヨーロッパに比較して、格段に高いそうです。これは石油価格だけの問題でないようです。同じ距離を走るのに時間が大幅にかゝり、高速道路の料金も従って高いことがその原因です。

数年前に訪問したスウェーデンは、ヨーロッパの中でも有数の道路網の充実した国です。ストックホルムを中心にした南の地帯には網の目のような道路が張りめぐらされており、これがノルウェイに向けて伸びています。市街地の道路も実によく整備されていました。

ごぞんじ北ヨーロッパは、緯度で北海道よりはるかに北に位置しています。(イタリアのミラノあたりが北海道の北の外れにあたるようです) 冬の条件は、日本とは較べものにならない程きびしいものがあります。毎日のように雪が降り、路面は凍り、スリップし易い状態が何ヶ月も続きます。しかし、渋滞は日本に比して少なく、道路が広いおかげで、冬のスリップ事故は少ないようです。

日本は人口1億2千万人の大国ですが、道路事情は、この北欧のスウェーデン、今回訪問した西独に比しても、はるかに貧弱です。良質な車を安価に多量に輸出する国、日本。しかし、日本の道路事情をヨーロッパのそれと比較して考えた場合、日本は非常に偏った国に見えて来ました。



YMCA ニュース

▽マレーシア・サラワクよりお客様

ご承知のように毎年大阪YMCAは青年達をマレーシアのサラワクに送りワークキャンプを通じてイバンの人々との交流を深めています。先方の受入れYであるシブYMCAから約15名の会員の方々が来日し、その中の5名が来る4月11日に来阪します。そのための受入れ準備が進められています。

▽第34回国際理解公開講座

標記の講座が4月19日(金)アジア保健研修財団より池住義憲氏を迎え、フィリピンでの実践体験を通じて、草の根自立への協力を考えることになっています。ご出席を歓迎します。

▽日本語熱ますます高まる

当奉仕センターでは外国人に対する日本語コースをはじめて数年たちますが、最近片手間ではなく、じっくりと時間をかけて勉強する人が増え、全日制コースが開設されますが、目下その準備に大わらわです。